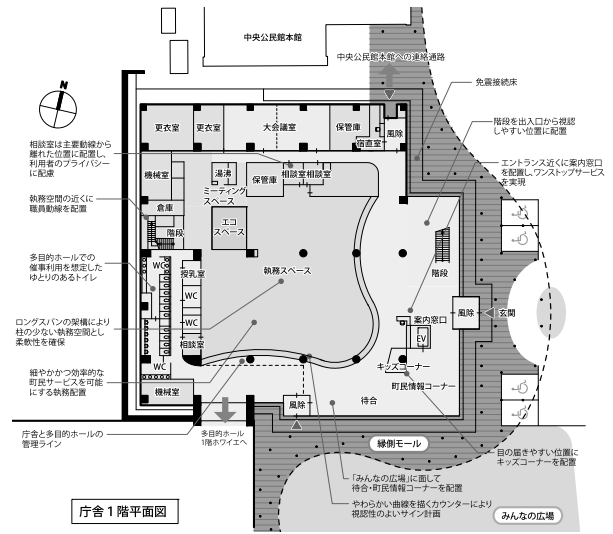


平面計画／庁舎

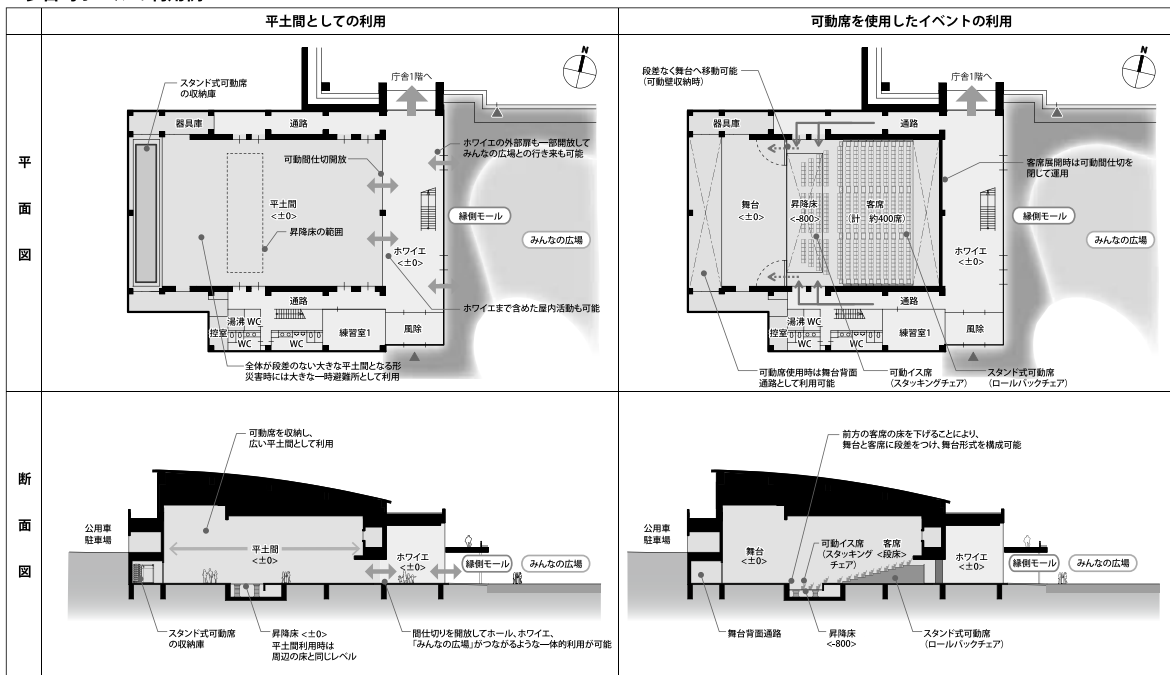
- ・1階は、市民の利便性を高めるよう窓口業務を集約して配置し、ワンストップ窓口サービスを行います。
- ・個別ブースや相談室の設置など、プライバシーに配慮した相談、応対、住民サービスを可能とする計画とします。
- ・南海トラフの連動地震だけでなく近隣の活断層の地震も想定し、町の災害拠点施設としての役割を担うため、免震構造を採用します。
- ・万一の浸水に備えて、電気室、非常用発電機などの主要な設備は上層階に配置します。
- ・4階に議会機能を集約し、独立性の高い議会フロアとし、バリアフリーに配慮した傍聴席、まちなみを一望できる傍聴ロビーを計画します。

平面計画／多目的ホール

- ・現在の中央公民館南館の設備、機能面の不便さを解消した計画とします。
- ・中央公民館本館と合わせて多くの市民が幅広く利用できる町の文化拠点となるようなホール計画とします。
- ・多様な利用形態に配慮した多目的ホールを計画します。日常は、大広間のような平土間利用を中心とし、催事には約400席の可動席を展開してイベントに対応します。
- ・ホール、ホワイエ、みんなの広場の一体的な利用により、さまざまなイベント、企画、舞台演出が可能となり多様な使い方ができるホールを計画します。
- ・ホールは、災害時の一時避難所として市民や帰宅困難者を受け入れます。できるだけ多くの方を収容し、災害時要援護者にも対応できるように、段差のない広い空間を確保します。
- ・ホールのトイレは、利用形態にあわせて運用範囲を設定し、イニシャルコスト（初期経費）、メンテナンスコスト（維持経費）の削減に努めます。日常のサークル活動などは多目的ホールに整備したトイレを利用いただき、催事の場合は、庁舎1階のトイレを利用する想定です。
- ・練習室は会議室としても利用できるように整備します。



<多目的ホールの利用例>



概算事業費

上記の建築計画に設計業務や備品移設などの業務を加えた全体の概算事業費は約38億4千万円です。今後の実施設計においても、細部にわたり、事業費の削減を図り、詳細な検討を行います。